

モモの新しょう伸長抑制剤の効果的な使用時期						
<p>[要約] モモでは新しょう伸長抑制剤を満開後4週間後と6週間後の2回散布することによって新しょうの二次伸長が抑制され、果実の着色が良好となる。また、結果枝の節間が短くなり、花芽の着生密度が高くなる。</p>						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
平成9年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

西南暖地でモモを栽培すると生育期の気温が高いため新しょうの伸長が旺盛となり、園内の光環境が悪くなって、品質の低下を引き起こす。省力的な過繁茂防止対策として植物生長調節剤のバウンティフロアブル（成分名パクロブトラゾール）が有効で、登録もあるが、適用範囲が満開4～12週間と長く、西南暖地における散布の適期が確立されていない。そこで、本剤の有効な散布時期を検討した。

[成果の内容・特徴]

- ①新しょうはバウンティフロアブル1000倍の散布により伸長が抑制されるが、満開6,9週間後の2回散布区では二次伸長する。二次伸長を防止するには満開4,6週間後の2回散布がよい（図1）。
- ②バウンティフロアブルを満開4,6週間後に散布することにより果実の着色が良好となる（表1）。
- ③結果枝の節間はバウンティフロアブルの散布により短くなり、花芽の着生密度が高くなる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- ①樹勢が低下した園では樹勢低下を助長する恐れがあるので使用しない。
- ②残効が極めて長い薬剤なので、連年使用する場合は樹勢の低下が見られないか十分注意する。
- ③本剤は対象作物以外の農作物にも影響を及ぼすので、散布の際は薬剤が飛散あるいは流出しないように注意する。また、本剤の抑制効果は使用薬量や土壌条件等によっては翌年以降に植え付ける他の植物の生育にも影響を及ぼすことがあるので、他の植物を植え付ける予定の場所では使用しない。

[具体的データ]

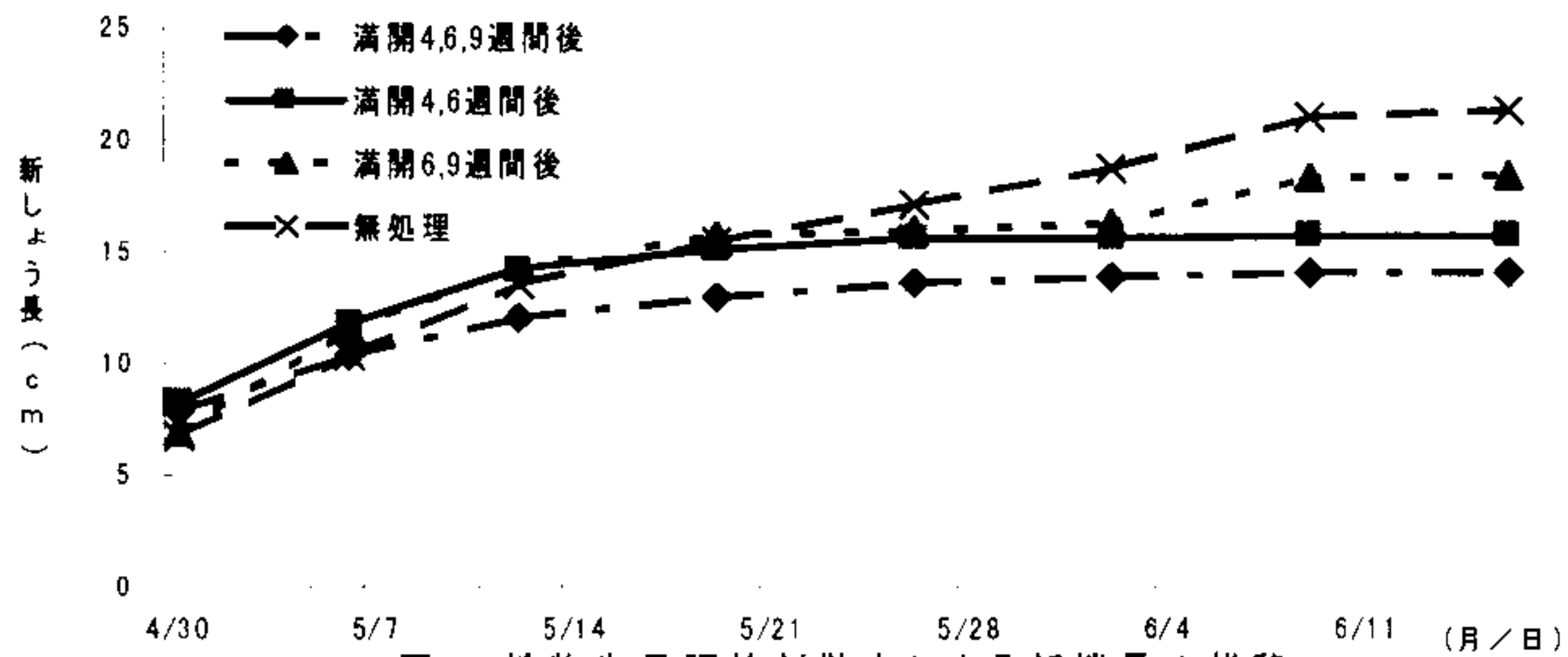


図1 植物生長調節剤散布による新梢長の推移

(満開期 3月28日)

表1 植物生長調節剤が果実肥大・品質に及ぼす影響

区	ハウンティフロアブル 散布時期	果実重 (g)	横 径		変形率 ²	着色 ³ 歩合	核割 ⁴	糖度	pH
			長径 (mm)	短径 (mm)					
1	満開4,6,9週後	150.1	72.1	63.3	114.3	6.1	0.5	9.6	4.30
2	満開4,6週後	172.7	73.6	66.1	111.5	6.4	0.3	9.9	4.10
3	満開6,9週後	159.9	72.2	63.2	111.5	6.0	0.3	10.3	4.10
4	無処理	152.8	70.6	63.3	111.6	5.2	0.3	10.2	4.10

² 横径の長径/短径×100

³ 紅色の全面着色を10として、着色程度を評価

⁴ 0:無 1:微 2:軽 3:中 4:甚 の4段階で評価

表2 バウンティフロアブルの散布が結果枝の節間の長さとは花芽の着生に及ぼす影響

区	ハウンティフロアブル 散布時期	節間長 (cm)	花芽着生密度 ² (個/10cm)
1	満開4,6,9週後	1.5	10.0
2	満開4,6週後	1.6	11.6
3	満開6,9週後	1.8	9.7
4	無処理	2.3	6.4

² 結果枝10cm当たりの花芽の着生数

[その他]

研究課題名: 施設落葉果樹の新作型, 栽培法の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成9年度(平成9~13年)

研究担当者: 林田誠剛, 森田 昭

既発表論文等: 平成9年度長崎県果樹試験場業務報告